

東日本大震災 沖縄民医連 支援ニュース

第19号 2011年4月23日(土) 電話:098-833-3397

第6陣支援隊:喜瀬さん(PT)と高橋さん(看護師)からの報告です

沖協 PT 喜瀬です。

今日から、多賀城総合体育館でリハチームとして活動を開始しました。第5陣の OT 黒島さんからスタートしたチームですが、しっかり引き継ぎが出来てきています。

4人で13~15人程度のリハ対象者を担当しています。

ある避難所の方からは、「前にも沖縄の人達が来ていたよ～」と声をかけられ、沖縄から支援に来ている認識が定着しているように感じました。

女性の方からは、「地震後10日間は誰とも話しをしたくなかったけど、今なら・・・」とリハ中に自らお話しされ、貴重なお話しを聞く事ができました。身体を触れながら関る事でリラックスされたようでした。

リハの主な役割は、個別リハビリと、避難所の環境調整、必要な靴や補助具の調達・調整などその場での柔軟な対応が必要な印象を受けました。

初日の業務の引継ぎで、あつぷあつぷでしたが、明日から気負いせずに頑張りたいです。



沖協の高橋(看護師)です。支援活動2日目が終わりました。

私はこの2日間、仙台市の長町と若林地区の地域訪問に参加をさせていただきました。

印象として、地震後の後片付けは済んでおり、現在は、余震の不安。この先の生活に対する不安が大きいように思いました。その中でも、若林地区で出合った家族が印象的でした。家の1階部分が流され、津波を見ながら必死に逃げたそうです。そのため、荷物は殆どなく、お皿は土の中から拾った皿を使い、鍋もなし。子供の服は2階だったので、残ったが、自分たち親の服は殆どない。

車も流された。等々。この家族は、幸いにもアパートを借りることが出来たため、避難所生活はしていないが、支援物資は殆ど届いていないようでした。

きっと、このような家族が他にも、もっといると思います。

どうしたら、いいんでしょうか？

第7陣

4/24(日)~5/1(日)、我如古るみ子さん(那診・看護師)と大城翔さん(沖協・PT)が支援に行きます。